



東洋大学



TOYO UNIVERSITY EXCELLENT EDUCATIONAL ACTIVITY AWARDS 2025



東洋大学優秀教育活動賞受賞者紹介

優秀教育活動賞とは



東洋大学優秀教育活動賞は、2017(平成29)年度に新設された制度です。
 本学で実施されている優れた教育活動(各学部の授業科目および授業に伴う教育活動)を企画実施し、学生に大きな教育効果を与えた専任教員を表彰したたえとともに、FD 活動などを通じて、優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。
 この表彰制度が学内のすばらしい取り組みに光を当てるきっかけとなることが期待されます。

2025年度受賞者

氏名	所属	タイトル
檜山 智美	文学部 東洋思想文化学科	「東洋思想文化演習A」
芝 正太郎	経済学部 経済学科	「経済特講Ⅴ(行動経済学)」
古屋 あい子 渡辺 千尋	経済学部 国際経済学科	「ゼミナールⅠ」 国際経済学科におけるグローバル人材基礎力強化
李 芝妍	法学部 法律学科	「専門演習ⅠB2・ⅡB2」 韓国の大学との学術交流
片山 美由紀	社会学部 社会心理学科	「人間関係論」 交換留学生とともに学ぶ
窪田 佳寛 新藤 康弘 森本 賢一	理工学部 機械工学科	「機械設計法および演習」
相沢 宏明	理工学部 応用化学科	「無機化学実験」
花田 真吾	国際学部 グローバル・イノベーション学科	「International Education in Global Society」
牧野 冬生	国際学部 国際地域学科	「専門ゼミナールⅢ・Ⅳ」川内村調査プロジェクト ー被災地域のまちづくりにおける地域資源活用への取組ー
ボール マッケンティー	国際観光学部 国際観光学科	「Reading and Vocabulary A/Reading and Writing A10」 「Reading and Vocabulary A/Reading and Writing A11」 「Reading and Vocabulary B/Reading and Writing B10」 「Reading and Vocabulary B/Reading and Writing B11」
椎崎 一宏	生命科学部 生命科学科	「分子遺伝学/遺伝学」
高妻 篤史	生命科学部 生物資源学科	「環境微生物学」
張 子カン	総合情報学部 総合情報学科	「総合CーDEIー」 「総合C【ENG】ーDEIー」
成川 恵	食環境科学部 食環境科学科	「食環境科学総合演習(f-STEAM)」
福森 文康 佐藤 秀保 竹田 麻里 児玉 剛史 中島 亨 柴田 浩文 高橋 克也 田村 龍一 柴 英里 相馬 拓宜	食環境科学部 フードデータサイエンス学科	「フードデータ分析基礎演習Ⅰ・Ⅱ」
古藪 麻里子	情報連携学部 情報連携学科	「リーディング・ライティング演習Ⅰ・Ⅱ」
小野 道子 川原 恵子 林 大介 的場 智子 柏木 志保 孫 心悦	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	「社会福祉学総合演習Ⅰ・Ⅱ」
伊藤 美佳 麗 麗	福祉社会デザイン学部 子ども支援学科	「子育て支援実践」 地域子育て支援実践力向上プログラム
木内 明 細谷 洋子 熊澤 拓也 萩原 卓也	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	「国際健康スポーツ交流A」
矢野 友啓 河野 翔	健康スポーツ科学部 栄養科学科	「食品学実験」

ご挨拶



2025年度優秀教育活動賞を受賞された先生方に、心よりお祝い申し上げます。今回は過去最多となる20件の取り組みが表彰の対象となり、本学における教育の質の向上に向けた不断努力と創意工夫が、確かな成果として実を結んでいることを物語っています。受賞された取り組みはいずれも、学生の主体的な学びを引き出し、知識の修得にとどまらず、思考力、判断力、実践力を育む優れた実践です。社会の変化が一層速まる今だからこそ、学生が本質を見極め、課題に挑み続ける力を育む教育の重要性はますます高まっています。これらの好事例を広く学内で共有し、今後の教育活動がさらに力強く発展していくことを期待しています。

選考委員長・学長 矢口 悦子



受賞者紹介

文学部
東洋思想文化学科

助教

檜山 智美



「東洋思想文化演習 A」



受賞授業・教育プログラム

東洋思想文化学科の2年生以上を対象とする本講義では、古代インドの仏教文化やシルクロードの仏教遺跡に関する英文の概説書や展覧会カタログなどの講読を通して、芸術作品を手掛かりに歴史や思想・文化を読み解く方法を紹介しつつ、仏教を英語で語るための専門用語や表現も学んでいきます。学生による研究発表や、講読内容に関するRESPONクイズ、画像データベースを用いた芸術作品の情報検索演習、芸術作品の写真撮影演習なども合わせて実施することで、受講生の能動的な学びを促しつつ、芸術作品を通してアジアの歴史と文化を探求する研究の面白さを多角的に学びます。

受賞者からのコメント

かつてユーラシア東西を結ぶ交易路であったシルクロードのオアシス都市において花開いた芸術文化は、各地域の歴史・思想・文化背景を知るための貴重な情報の宝庫です。美術作品という窓を通して過去の人々の生活や信仰、世界観、東西文化交流の様相などを覗き見る体験の面白さを伝えるために、様々な工夫をしながら授業作りに取り組んできました。このたびは本授業の取り組みをこのような形でご評価賜り、大変嬉しく存じます。ご推薦下さった先生方と、楽しい授業作りに積極的に参加してくれた学生の皆さまに、深く感謝申し上げます。





受賞者紹介

経済学部
経済学科

助教

芝 正太郎



「経済特講Ⅴ(行動経済学)」



受賞授業・教育プログラム

本講義は経済学科3年生以上を対象とする専門科目で、学生の関心が高い「行動経済学」の様々なトピックを教えています。行動経済学は心理学や日々の生活と密接に結びついた学問なので、アンケートや経済実験、毎週の課題(学んだトピックを用いて身近な現象を論じる)などを通じて、学生が自らの経験や社会の具体的問題と(行動)経済学を結び付けて考えられるよう工夫を凝らしています。

受賞者からのコメント

このたびは優秀教育活動賞という名誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。ご推薦くださった先生方、選考に携わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。また、毎週の課題に真摯に取り組んでくれた受講生の皆さんにも感謝しています。サークルや恋愛、マーケティングなど多様なテーマに基づく独創的な考察を、毎週楽しく拝見していました。今後も学生の知的好奇心を刺激できる授業を目指してまいります。





受賞者紹介

経済学部
国際経済学科

古屋 あい子（講師）
渡辺 千尋（准教授）



「ゼミナールⅠ」 国際経済学科における グローバル人材基礎力強化



受賞授業・教育プログラム

国際経済学科の「ゼミナールⅠ」では、2025年度よりグローバル人材基礎力の育成を目指した初年次教育の充実に取り組んでいます。プレゼンテーションやレポート作成に加え、グループワークを通じて対話・協働する力を養いました。上級生2名がフレッシュマンサポーター（フレサポ）として学修や学生生活を支援しました。教員推薦の「コース別文献リスト」の輪読・発表を通じ、2年次ゼミナールでの主体的な学びの基盤を築きました。また、外部講師による講演を通じ、国際社会で働くことや将来の進路について考える機会も設けました。

受賞者からのコメント

このたびは優秀教育活動賞を賜り、大変光栄に存じます。この栄えある賞は、国際経済学科の先生方の叡智を結集して実現したものです。初年次教育の充実に向けた取り組みは2024年度に始まりました。「ゼミナールⅠ」の歩みを振り返りながら、現代の1年生に必要な力を先生方との対話を通じて模索してきました。今後も温故知新の姿勢を大切にし、先生方やフレサポとともに、より良い教育を追求してまいります。





受賞者紹介

法学部
法律学科

教授

李 芝 妍



「専門演習ⅠB2・ⅡB2」 韓国の大学との学術交流

受賞授業・教育プログラム

専門演習Ⅰ・Ⅱは、保険契約をめぐる基本論点について、判例研究を通じて考察するゼミです。その学びを発展させる取り組みとして、2025年度は国民大学校との合同ゼミ、東國大学校との国際学術交流会を現地で行い、保険者免責や少子高齢化の法的課題を報告・討論したほか、東洋大学でも交流会を開催しました。学生は他国の研究者・学生との議論を通じて、法的問題を比較法的な視点から検討する力を養い、卒業後を見据えたキャリア形成の基盤を築いています。

受賞者からのコメント

このたびは栄誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。ご推薦・運営にご尽力くださった先生方に深く感謝いたします。法を共通の言語として、異なる文化や価値観をもつ人々と対話し、互いの社会を理解し合う経験は、これからの社会で活躍する人材の礎になります。今後も、学生が他国の学生と学び合う機会を充実させ、国際的な視野を備えた人材の育成に努めてまいります。挑戦した学生たち、交流を支えてくださった皆様に、改めて感謝申し上げます。





受賞者紹介

社会学部
社会心理学科

教授

片山 美由紀



「人間関係論」 交換留学生とともに学ぶ



受賞授業・教育プログラム

社会心理学科の専門科目です。在学生と交換留学生がともに英語で学びます。日本学生は遠く離れた国／地域の「あたり前の日常」の話を聞くことで、別種の人間関係のあり方に気づきます。一方の留学生は日本に関してもっているたくさんの疑問を、日本学生にぶつけます。このように「多様性に敏感」かつ「受動的」な状態で人間関係理論を学ぶと、学生の「気づき」「学び」は深く広がります。ディスカッションで教室が騒がしいことは教員にとり喜びです。そうなるように「問いかけ」を多用し、個別の声掛け・日英でレスポンス共有・レポートは録音音声でも共有・教室外での交流（六義園散歩）等の工夫をしています。

受賞者からのコメント

白山キャンパスでは世界各大陸の交換留学生が毎年百数十名学んでいます。けれども国際系ではない学部・学科の学生はECZ入室や学内開催国際プログラム参加に「壁」を感じることもあるようです。そこで「人間関係論」を2017年度から英語開講とし、実は同様に日本学生との交流機会が限られる交換留学生と日本学生がともに授業教室で議論しながら専門科目を学べるようにしました。試行錯誤の授業運営に協力してくれたこれまでの受講生に感謝します。国際教育センターの取り組みにより、学内国際交流の機会が実はたくさんある東洋大学で、今後交流が一層広がることを願っています。



受賞者紹介

理工学部
機械工学科

窪田 佳寛（准教授）

新藤 康弘（准教授）

森本 賢一（准教授）



「機械設計法および演習」



受賞授業・教育プログラム

本実験演習科目は、3年次までに学修する機械工学の六基礎（四力学・制御工学・計測工学）で修得した知識や考え方を統合し、実際のものづくりを通じて機械設計を学ぶPBL型授業である。学生はチームで企画・設計・製作（加工・組立を含む）・評価までの一連の機械設計プロセスを主体的に遂行し、実践的な設計開発力と課題解決力を養う。また、成果物の実演や発表を通じて、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、プレゼンテーション力を総合的に育成している。

受賞者からのコメント

このたびの受賞を大変光栄に存じます。本授業では、学生がこれまでに学修した機械工学の六基礎や製図・CADなどの知識や考え方を活用し、チームで協力しながら課題解決に取り組むことを重視してきました。特に、「ユニークな」機械の設計から製作までを一貫して経験し、試行錯誤を重ねながらアイデアを形にするプロセスを通じて、ものづくりの楽しさと難しさを体験できるよう工夫しています。今後も、機械工学の知識を実社会の課題解決へと結び付けられる技術者の育成に努めてまいります。





受賞者紹介

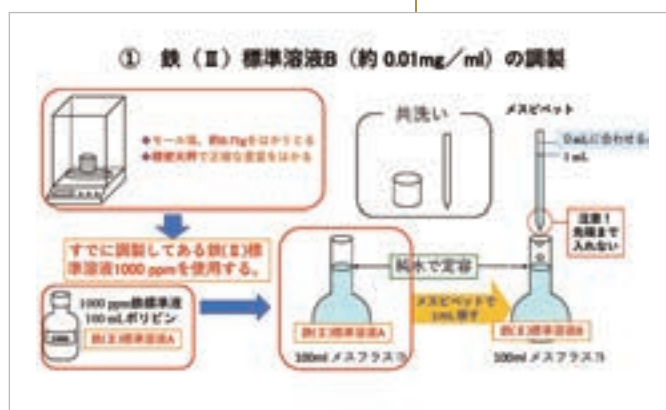
理工学部
応用化学科

教授

相沢 宏明



「無機化学実験」



受賞授業・教育プログラム

本講義は応用化学科2年生以上を対象とした必修の実験科目です。分析化学実験の基礎である容量分析および、光学的あるいは電気化学的装置を用いた分析実験を行います。各テーマの実験計画、資料収集、実験操作から、データの解析・整理、報告書作成に至る一連の技術を身に付けることを目標としています。受講生一人ひとりが確実に技術を習得できるよう、手厚いサポート体制を整えています。

受賞者からのコメント

このたびは栄えある優秀教育活動賞を賜り光栄に存じます。推薦して下さった学科の先生方、教務課の皆様に感謝申し上げます。実験科目は複数の教員と学生スタッフ(TA・SA)で担当しております。今回の受賞は実験担当のチームワークが無ければ決して成し得なかったものであり、メンバー全員の尽力の賜物だと感じております。この受賞を励みに、今後も学生一人ひとりの成長を支える教育活動に邁進してまいります。





受賞者紹介

国際学部
グローバル・
イノベーション学科

教授

花田 真吾



「International Education in Global Society」

受賞授業・教育プログラム

「International Education in Global Society」は、グローバル・イノベーション学科の1、2年生を主な対象とした授業です。

地政学的に大きく変化する時代における国際教育の展開について英語で学びます。

「講義」「英語文献の通読」「グループディスカッション」の3部構成で、一般学生と留学生が共修する多様性のある学習環境の中で、知識を習得するだけでなく、協働学習を通じて学び合う場をつくることを目指しています。

受賞者からのコメント

このたびは、名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。ご推薦くださいました先生方に、心より御礼申し上げます。
文化的背景が異なる学生の皆さんが、多様な視点を交えて議論しながら学び合うことで気づきを得る瞬間に立ち会えることは、私にとって大きな喜びです。
これからも、学生の皆さんが多様な仲間とともに学ぶ楽しさを実感してもらえるように精進していきたいと思っております。





受賞者紹介

国際学部
国際地域学科

教授

牧野 冬生



「専門ゼミナールⅢ・Ⅳ」川内村調査プロジェクト — 被災地域のまちづくりにおける地域資源活用への取組 —



受賞授業・教育プログラム

本授業（専門ゼミナールⅢ・Ⅳ）は、調査計画、現場実習、学術研究、社会実践を有機的に連携させた教育実践です。専門的文献の購読による理論習得を土台にしながら、福島県川内村での現地踏査やフィールドワークを展開しました。前年度の牧野ゼミによるまちづくりコンペ入選案を、地域連携による学食コラボや祭りへの出店などの具体的な社会実践へと深化させています。さらに、現場での気づきや住民との対話を学生個々の研究へと昇華させ、最終的に卒業論文として高い水準でまとめることの重要性を一連のプロセスを通じて指導・実践しました。

受賞者からのコメント

このたびは栄えある賞をいただき、国際学部国際地域学科の教職員の皆様、また牧野ゼミ生の皆様に心より感謝申し上げます。本学科が掲げるディプロマ・ポリシーには、グローバルな視野を持ちつつ国内外の「地域づくり」に貢献する人材の養成が示されています。これに応えるためには、教室内での学びにとどまらず、学生自らが地域へと赴き、課題解決へ挑む現場主義の実践が不可欠です。今後もこの理念を軸に、主体的な実践者を育む教育活動に邁進いたします。





受賞者紹介

国際観光学部
国際観光学科

契約制外国語講師
ポール マッケンティー



「Reading and Vocabulary A／Reading and Writing A10」
「Reading and Vocabulary A／Reading and Writing A11」
「Reading and Vocabulary B／Reading and Writing B10」
「Reading and Vocabulary B／Reading and Writing B11」



受賞授業・教育プログラム

IdeX (Intercultural Digital Exchange) は、Instagram等の身近なICTを活用し、東洋大学の学生と海外協定校等の学生をつなぐ国際オンライン交流プログラムです。学生は大学生生活、食文化、伝統、将来の夢などをテーマに、英語を用いながら写真、動画、リール、音声、絵文字、コメント等を組み合わせ、発信・応答します。海外渡航を伴わずに、異文化理解、協働的な対話、マルチモーダル表現力を育むことを目指しています。

受賞者からのコメント

このたびは栄誉ある優秀教育活動賞を賜り、大変光栄に存じます。ご推薦くださった先生方、授業運営を支えてくださった皆様、そして積極的に交流に参加してくれた学生の皆さんに心より御礼申し上げます。IdeXは、英語を学ぶだけでなく、相手に関心を持ち、自分の文化や日常を伝え合う場として始めました。今後も学生が世界とつながり、互いを身近な存在として理解できる学びを広げてまいります。





受賞者紹介

生命科学部
生命科学科

教授

椎崎 一宏



「分子遺伝学／遺伝学」



受賞授業・教育プログラム

「遺伝学」は、現代生物学において不可欠な学問分野です。本講義は、生命科学部生命科学科2年生の必修科目であり、その後の講義・実習・研究の礎となることから、ToyoNet-ACEを活用して資料の提示やドリル、演習問題の提供を行い、基礎的知識の定着を図っています。一方で、近年の遺伝学、特に分子生物学の進展は目覚ましく、より深い知識を求める学生に向けて最新の研究を紹介したいとの思いから、ToyoNet-ACE上にコラムも掲載しています。

受賞者からのコメント

このたびは、このような大変名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。遺伝学は難しいと思われがちですが、私たち自身に深く関わる学問です。私たちが生きている限り、細胞は染色体を複製し、DNAは損傷を受けては修復されています。講義では、このような目に見えない生命現象を扱うだけでなく、学生の表現型に関するアンケートなども取り入れ、遺伝学をより身近に感じられるよう工夫しています。今後も学生の関心を引き出す授業運営に努めてまいります。





受賞者紹介

生命科学部
生物資源学科

教授

高妻 篤史



総合知教育

「環境微生物学」



受賞授業・教育プログラム

「環境微生物学」は、生命科学部生物資源学科および生命科学科の2年生以上を対象とした専門教育科目です。本講義では、多様な環境に生息する微生物の代謝機能について学びながら、あらゆる生命に共通するエネルギー代謝の本質を理解することを目的としています。また、環境微生物が実社会の課題解決にどのように貢献しているかを学びます。毎回のレポート課題では、疑問点について自ら調査し、論理的な文章にまとめる力を身につけることを目指しています。

受賞者からのコメント

このたびは優秀教育活動賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。微生物はありとあらゆる化学反応を駆使して、(私たちにとっては)過酷な環境を生き抜いています。着任後間もない講義であり、まだまだ発展途上ですが、そんな彼らの生きざまの面白さを伝えたいという思いを大切に、授業を行っています。卒業研究へとつながる興味や探究心を引き立てるような講義ができるよう、これからも初心を忘れず、精進してまいります。





受賞者紹介

総合情報学部
総合情報学科

講師

張 子カン



総合知教育

「総合C—DEI—」
「総合C【ENG】—DEI—」



受賞授業・教育プログラム

本授業「総合C—DEI—」では、多様性 (Diversity)、公平性 (Equity)、包摂性 (Inclusion) をテーマに、現代社会におけるさまざまな課題について学ぶ。春学期は日本語、秋学期は英語による授業として実施し、国内外の統計データや具体的な社会事例を活用しながら、多角的な視点から社会を理解する力の育成を目指した。毎回のミニ課題とフィードバックを通じて学習内容の定着を図るとともに、学生が自ら考え、対話しながら学ぶ参加型の授業づくりに取り組んでいる。

受賞者からのコメント

このたびは、優秀教育活動賞という名誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。本授業では、多様な文化的背景や価値観に触れながら、学生が社会課題を主体的に考え、多角的な視点を身につけられるよう努めてまいりました。この受賞は、積極的に授業に参加してくれた学生の皆さんと、日頃よりご支援くださる先生方のおかげであると感じております。この受賞を励みとして、今後も国際的な視点を活かした教育活動に取り組んでまいります。





受賞者紹介

食環境科学部
食環境科学科

助教

成川 恵



「食環境科学総合演習（f-STEAM）」



受賞授業・教育プログラム

「食環境科学総合演習（f-STEAM）」は、学生がチームで課題を設定し、micro:bitを用いたプログラミングや情報収集を通じて、未来の食に関する課題解決や新たな提案を行う実習です。プログラミングの基礎修得後は、各チームが独自のテーマに取り組み、検討した内容を形にしていきます。最終発表では動画制作を採用し、アニメーションやドラマ、プレゼンテーションなど多様な方法で成果を発信しました。本授業では、学科の異なる学生同士が協働し、多様な視点を活かしながら課題解決に取り組む実践的な学びを展開しています。

受賞者からのコメント

このたびは名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。ご推薦くださった先生方をはじめ、授業運営にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。本授業では、学生が自ら問いを立て、目標を設定し、試行錯誤しながら解決策を考えることを大切にしてきました。自由には責任や困難も伴いますが、その過程でこそ大きな学びが生まれると考えています。今回の受賞を励みとし、今後も学生が主体的に挑戦できる学びの場づくりに努めてまいります。





受賞者紹介

食環境科学部
フードデータサイエンス学科

福森 文康（教授）
佐藤 秀保（准教授）
竹田 麻里（教授）
児玉 剛史（教授）
中島 亨（教授）
柴田 浩文（講師）
高橋 克也（教授）
田村 龍一（准教授）
柴 英里（准教授）
相馬 拓宜（助教）



「フードデータ分析基礎演習Ⅰ・Ⅱ」

受賞授業・教育プログラム

フードデータサイエンス学科では、1年から4年までゼミナール形式の授業を配置しています。その中で本科目は1年生を対象とした専門必修科目となっています。学生は初年度から農業経済や消費者の選好、VRや官能検査などの各教員の専門領域についての理解を深めることができ、2年生以降の学びにも繋がるものとなりました。授業は複数の教員が担当するオムニバス形式で行われ、講義に加えて、食品工場、市場、企業、農場などの見学や体験学習も実施しました。学生は、食品製造や流通、XR技術、フードビジネスの現場を実際に見聞し、食をめぐる社会の仕組みや課題について多角的に理解を深めました。また、食品産業の第一線で活躍する外部講師を招いた特別講義では、オリーブオイルの官能評価などを体験しながら、専門的な知識やキャリア形成について学びました。今後も本科目の教育効果が高まるよう、さらに授業運営を工夫していきたいと存じます。



受賞者からのコメント

このたびは栄えある優秀教育活動賞を賜り、誠に有難うございます。推薦して下さった学科の先生、事務課の皆様、選考に携わって下さった皆様に深く感謝いたします。



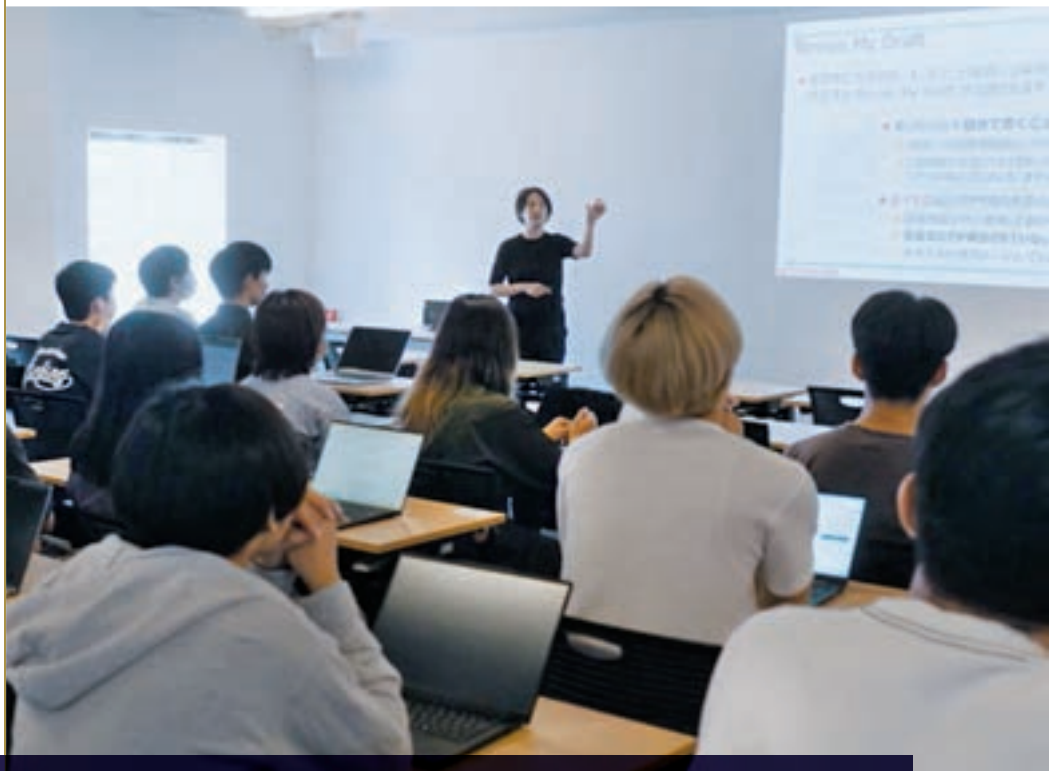


受賞者紹介

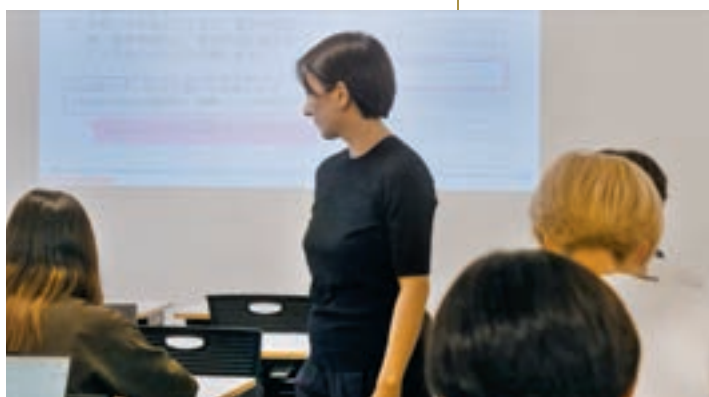
情報連携学部
情報連携学科

准教授

古藪 麻里子



「リーディング・ライティング演習Ⅰ・Ⅱ」



受賞授業・教育プログラム

本プログラムでは、生成AIを学生の「思考のサポーター」として英語カリキュラムに積極導入しています。AIがライティングのトレーニングパートナーとなり、新たな表現や解説を提供。その対話の過程を通して英語力と論理的思考力の向上を促し、学生が自ら問いを立てて思考を深められるよう設計されています。教員はデータ化され可視化された対話プロセスを基に指導を行うことで、AIの即時性と教員の専門性を掛け合わせた指導体制を構築しています。

受賞者からのコメント

このたびは優秀教育活動賞を賜り、大変光栄に存じます。この挑戦を支える教育環境を整えてくださった学部、そして生成AIをカリキュラムに導入するにあたり親身にご助言くださった学部創設者の坂村健先生に心より感謝申し上げます。本プログラムでは、AIを学生の主体的な学びを支えるパートナーと位置づけて取り組んでまいりました。今後も日々進化するAIの動向を捉えながらカリキュラムの改善と進化を重ね、より効果的で質の高い先進教育を追求してまいります。





受賞者紹介

福祉社会デザイン学部
社会福祉学科

小野 道子（准教授）

川原 恵子（准教授）

林 大介（准教授）

的場 智子（准教授）

柏木 志保（准教授）

孫 心悦（助教）



「社会福祉学総合演習Ⅰ・Ⅱ」

受賞授業・教育プログラム

「社会福祉学総合演習Ⅰ・Ⅱ」は、福祉系国家資格を目指さない社会福祉学科2年生を対象とする現場体験型の教育プログラムです。社会課題を自らの問題として捉え、その解決に向けた多様なアプローチを学ぶことを目的とし、一般企業のCSR、福祉系企業、社会福祉法人、NPOなど、多様な協力先の支援を得てフィールド活動を行います。単なる体験にとどまらず、学生が主体的に課題解決に挑む点が特徴です。2025年度は15チームが、啓発動画・ポスター制作による情報発信や、赤羽台図書館での絵本読み聞かせイベントの企画・実施など、学生主体の社会貢献活動を展開しました。



受賞者からのコメント

栄誉ある賞を賜り、担当教員一同、心より感謝申し上げます。本プログラムでは、学生が現場での学びを通じて、地域社会の一員として社会課題に向き合う姿勢を育んでいます。こうした実践は、受入先の企業・法人・NPOの皆様の温かいご支援とご協力によって成り立っています。この受賞の喜びを受入先の皆様と分かち合い、今後も地域や社会と繋がりながら学生の成長を支える教育に努めてまいります。





受賞者紹介

福祉社会デザイン学部
子ども支援学科

伊藤 美佳（講師）

麗 麗（助教）



「子育て支援実践」 地域子育て支援実践力向上プログラム



受賞授業・教育プログラム

子ども支援学科では、朝霞キャンパス時代から、学科キャンパスがある地域と連携をした、乳幼児親子向け子育てひろばを、本授業履修生が企画実践をしています。

企画実践をする前には、子育て支援施設の見学、体験実践、支援者の方から話を聴くといった経験もし、その学びを基に、学内子育てひろばを開催しています。外国にルーツを持つ親子の参加もあることから、グローバルな視点を持つ学生の育成を視野に入れた実践プログラムについても取り入れています。

受賞者からのコメント

優秀教育活動賞という素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく光栄に存じます。心から感謝申し上げます。本授業プログラム活動は、10年以上にわたって継続して行ってきたものです。今回ここにお名前はありますが、2025年度以前に本活動でご尽力くださった歴代の本プログラム助教の先生方2名と私たちの4名で、いただいた賞だと思っています。

今後も、本活動を通して、地域子育て支援に関する実践力を高め、広角的視野と社会貢献の姿勢を涵養する学生の育成に努めてまいります。





受賞者紹介

健康スポーツ科学部
健康スポーツ科学科

木内 明（教授）

細谷 洋子（准教授）

熊澤 拓也（講師）

萩原 卓也（助教）



「国際健康スポーツ交流 A」

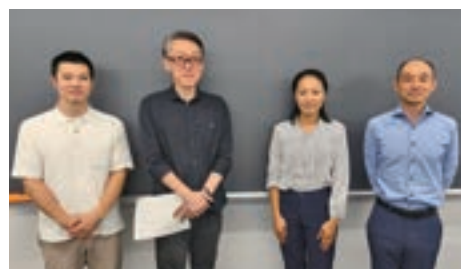


受賞授業・教育プログラム

本授業はグローバルセンスを養うための1年次の必修科目で、海外出身の非常勤講師3人を含む7人で指導にあたっています。非常勤講師の出身地は、ケニア、ロシア、マレーシアと多彩で、社会文化的背景の異なる彼らの体験を通じて、グローバル社会の多様性や日本の特殊性を学ぶ機会を提供してくれています。授業の中には、日本における多文化の実情を学ぶフィールドワーク、世界の舞台で活躍するためのグローバルなキャリア教育、日本ではなじみの薄い海外のエスニックスポーツを学び、その体験を通じた異文化理解等も組み入れています。これら多岐にわたる学びを通じて、多文化社会において思考し、行動するための知識とセンスを身につけ、その成果を学期の最後に英語でのプレゼンテーションという形でまとめています。

受賞者からのコメント

このたびは大変名誉ある賞を賜り心より御礼申し上げます。本科目は学科発足以来、受講生の皆さん、これまで一緒に担当してくださった水島淳先生や細川佳能先生、非常勤の先生方、ゲスト講義やエスニックスポーツ体験、フィールドワーク等に協力してくださった外部講師の方々と共に作り上げてまいりました。その成果がこのような形で結実し、皆様に深く感謝いたします。これを励みに今後より一層、本学のグローバル人材育成ビジョンやTOYO SPORTS VISIONに則った教育活動を推進してまいります。





受賞者紹介

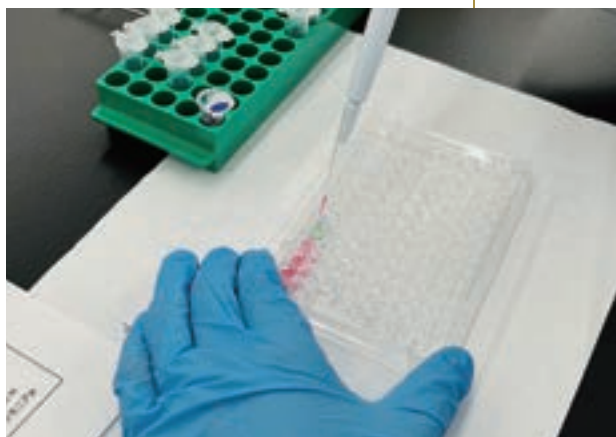
健康スポーツ科学部
栄養科学科

矢野 友啓（教授）

河野 翔（助教）



「食品学実験」



受賞授業・教育プログラム

1年次秋学期に開講される「食品学実験」では、春学期に学修した食品学の講義での学びを土台に、身近な食品に含まれる代表的な栄養成分の分析・測定を通して、食品成分表や栄養成分表示の根拠となる分析手法の知識および技術を学びます。また、本学科のカリキュラムの中で最初に触れる実験プログラムの1つであるため、単なる技術の習得だけでなく、自ら手を動かし、自ら導いた結果について、自ら考える、こうした実践の繰り返しの中で、科学的思考力や実験遂行能力を身につけるためのきっかけになるような授業を目指し実践しています。

受賞者からのコメント

このたびは、栄誉ある優秀教育活動賞を賜り、誠に光栄に存じます。ご推薦くださいました栄養科学科の先生方をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。「食品学実験」では、分析技術の習得だけでなく、実験準備からレポート課題まで、プログラム全体を通じて科学的思考能力を育む授業づくりを目指して取り組んでできました。学生の正直な反応やレポート課題からは、私たち教員も気付かされる点が多く、そうした学生の取り組み姿勢も授業づくりの大切なピースであると日々感じています。今後も、学生の自主性と主体性を尊重し、豊かな学びを学生と一緒に創造できるよう、より一層精進してまいります。

